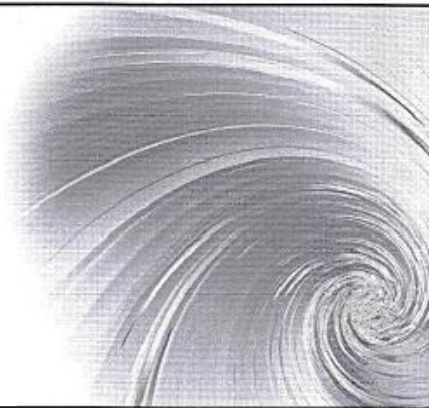




四国作業療法士会連絡協議会

NEWS

発行所：四国作業療法士会連絡協議会
四国作業療法士会連絡協議会 事務局 発行人：上田 裕久
〒770-0811 編集人：田中 茂
徳島県徳島市東吉野町二丁目 16 番地
株式会社 豊結会 デイサービスセンター **For You**
TEL:088(6789)777 FAX:088(6789)977



第33回四国作業療法学会のご案内



第33回四国作業療法学会
学会長 小松 博彦

第32回四国作業療法学会が2023年1月29日、盛況のうちに幕を下ろしました。吉野哲一学会長をはじめとする実行委員の皆さまに改めて感謝申し上げます。

さあ、次は第33回四国作業療法学会です。香川県が担当します。僭越ながらわたくし小松博彦（いわき病院）が学会長を務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

先だって、学会閉会式でもご報告しましたが、第33回の学会はWebを使わず、皆さまに会場まで足を運んでいただく学会となっています。Web学会で画面上に飛び交っていた拍手のイラストを、生の音として体感していただきたいと思います。その拍手の後、会場にいる仲間とすぐに語り合っていただきたい。賛同も賞賛も批判も全て、皆さま個々人が持つ空気感（オーラ）と共に感じ合い、語り合っていただければと思います。

その思いで現在、学会の準備を行なっておりますが、一つだけ、皆さまにお詫びしなければならないことがあります。本来であれば、ちょうど1年後の2024年1月頃の開催が望ましいと思います。ただ、冬季の開催となると、感染症や気象条件による交通の問題が発生しかねません。皆さまには誠に迷惑をおかけしますが、少しだけお時間をいただきまして、2024年6月の開催とさせていただきます。何卒、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。少しお時間が空きますので、その間に実践の成果をしっかりと育ていただき、本学会でご発表いただければと思っております。

話は変わりますが、今、手元に2010年3月23日発行の「都道府県作業療法士会連絡協議会四国支部20周年記念誌」があります。久しぶりに手に取ってみました。1990年5月愛媛県で第1回四国作業療法学会が開催され、その後の第11回から第20回までの本学会の歴史が刻まれています。そこに各学会の参加者数が書かれていました。第11回464名、第12回389名、第13回489名、第14回845名、第15回756名、第16回725名、第17回676名、第18回710名、第19回672名、第20回552名となっています。会員数は増加しているはずですが、第14回をピークに年々減少傾向なのが見て取れます。近年は300名前後で推移しています。Web研修になれば参加者が増えるのでは？なんて話も聞こえてきましたが、実態はその期待に沿わなかったようです。なぜでしょう。さまざまな要因が考えられます。それぞれの県士会でも県レベルの学会がスタートし、単純に学会が増加したこと、協会主催研修の増加やSIGによる研修会の増加なども影響しているのでしょうか？

動画配信サイトも含め、学ぶ場の増加は喜ばしいことです。ちょっと心配なのは、自分の興味の範疇だけで終結する学びや、関心のあることだけで集まった人たちがその範疇だけで終結する学びをしていないかということです。

学会は作業療法全図です。興味のある無しにかかわらず、作業療法全体を確認し、自分の立ち位置を見つける場です。専門的でありたいと思う人ほど、どうか全体像を確認してほしいと願うばかりです。

話を第33回四国作業療法学会に戻します。今回のテーマは「出会力」です。われわれは日々、われわれの利用者と出会います。われわれに出会った利用者は力を得られたのでしょうか？われわれは利用者から力を得られたのでしょうか？きっと得られているはずです。

その力をどうぞ伝えてください。われわれ自身も仲間と出会うことが力になるのか確かめましょう。出会は力になるのか？それを確かめる学会を2024年6月、香川の地で開きます。

第 32 回四国作業療法学会をおえて

第 32 回四国作業療法学会
学会長 吉野 哲一

春寒も緩みはじめ、ようやく過ごしやすい気候になってまいりました。皆様におかれましては、お変わりありませんでしょうか。

この度、2023年1月28日、29日に第32回四国作業療法学会を、昨年度に引き続きオンライン開催することができました。開催にあたりご協力いただきました皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。講師ならびに、司会、座長、査読を引き受けていただいた先生がたにおかれましては、ご多用にもかかわらず、当方の依頼に快く応えていただき誠にありがとうございました。また、演題発表にエントリーしていただいた方々、そして学会に参加してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

学会を終えてみて、少数精鋭での運営は、忙しく一人ひとりの負担はありましたが、楽しみながら行わせていただきました。講演や演題発表後の質疑応答では、運営の思惑とは裏腹に、対面よりも活発であったように感じました。皆さまの顔全てを拝見するには至りませんでした。お顔が見えないがゆえに自身の考えや感想を出しやすかった面もあったのではないかと感じております。今回の学会参加者は、二日間で延べ295名の方にご参加いただきました。

全体を振り返りまして今学会は、作業療法士として目指すべき方向や、臨床との向き合い方などを深く省察することのできるとても有意義な内容であったと思います。社会がめざましく変化する状況で、人の多様性や地域共生社会に向けて作業療法士への期待は高まる一方で、「私たちの未来は、私たちの今の行動で決まる」と力強いお言葉を賜りました、この言葉を胸に、ただ何となく過ぎていく日常でなく目的や目標を掲げて取り組むことが大切であることを再確認しました。皆様は、学会を通してどんな未来を描きますか？ その一歩を先送りにしていませんか？

今後世の中がどのように変わっていくのかは、誰にも分かりませんが皆様が大切にしたいことを優先してよいと思います。一人ひとりのウェルビーイングこそが周りの人を幸せにしていくものと信じています。誰かの幸せに貢献できる職業であるために、私自身も日々励んでいきたいと思っています。時節柄、なかなかお目にかかることができませんが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



A rectangular box with a decorative scroll-like border on the top and left sides, containing the title '受賞報告' (Award Report).

受賞報告

最優秀賞受賞者

- 脳血管疾患患者の起き上がり動作に関する因子の検討

日下 恭平（医療法人 道志社 小松島病院）

優秀賞受賞者

- 認知症は脳だけじゃない！脳・内臓・筋・心の4つへアプローチすることで改善した事例

日下 真理子（医療法人 いちえ会 カメリアデイサービス）

- 左被殻出血後、飲料用水1ケースを棚に上げられるようになり職場復帰出来た一症例

櫛部 拓也（社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治第二病院）

特別賞受賞者

- 徳島県における作業療法士の就労支援実態と課題

村上 義和（医療法人 いちえ会 サービス付き高齢者向け住宅 久千田）



県士会トピックス

徳島県



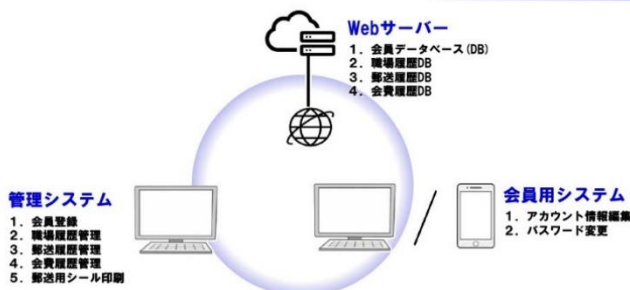
徳島県作業療法士会 事務局

徳島県作業療法士会 細川友和

徳島県作業療法士会では令和4年9月から、新しい会員管理システムの運用を始めました。これまでは紙媒体で入会届や異動届等を提出してもらい、事務局側で会員情報を更新していました。また、データ自体も事務局内で保管していたため、大規模災害等で事務局が被災してしまうと、会員の安否確認等の大規模災害発生時の初動の遅れが懸念されていました。新しい会員管理システムは、入会や異動等をインターネット経由で会員自らが登録・更新でき、登録時には重複していないメールアドレスを取得することで、これまで会員個人のメールアドレスの登録がなかなか進まなかった問題が解消する仕様になっています。メールアドレスは大規模災害発生時には

会員の安否確認等に使用し、通常時は研修会の案内等を配信するために使用し、発送物の印刷費や発送費等のコスト削減を図りたいと考えています。次年度からはメールでの案内を基本とし、さらに発送物を減らしてゆきたいと思えます。

会員管理システム



香川県



香川県作業療法士会 事務局

香川県作業療法士会 若林佳樹

毎年恒例の県民公開講座は、新型コロナウイルスの影響により中止しておりました。令和4年度では現地開催はまだ難しいと判断し、オンデマンド配信を実施しました。テーマは転倒予防で、掃除・洗濯の工夫を中心にお話ししております。何かをきっかけに全ての活動を諦める必要はなく、工夫によって「いつもの生活」を継続し、活動量を維持し続けることで転倒予防ができればと思っております。

今回、オンデマンド配信を実施してわかったこととして、どの場所でも、好きな時間に視聴できます。今までは現地開催で1日だけの開催でしたので、日程が合わないなど参加が難しい方もおられました。今後、新型コロナウイルスと共存していく中で、現地開催とオンデマンド配信など上手く組み合わせる事で、多くの香川県民の健康に寄与できるのではないかと思います。試行錯誤しながら、一歩ずつ前に進んでいきます。

令和4年度
香川県作業療法士会
県民公開講座
～いつもの生活続けて転倒予防！～

作業療法士
若林 佳樹

一般社団法人香川県作業療法士会

令和4年度
県民公開講座
いつもの生活続けて
転倒予防!

開催方法
YouTubeでの動画配信

講師
株式会社 創心會
作業療法士 若林 佳樹 氏

公開期間
令和5年 **1/16**(月) ~ **3/12**(日)

参加方法
メールでの受付後、YouTubeへのアクセスアドレスをお送りいたします。
※詳しくは裏面をご覧ください。

対象者
香川県在住で健康づくりに興味のある専門職、一般の方等

主催
一般社団法人 香川県作業療法士会

参加費 無料

【お問い合わせ先】 三島市立西香川病院 リハビリテーション科 作業療法士:山下正浩
〒767-0003 三島市美郷11地4-296-3 TEL:0875-72-5121 FAX:0875-72-2102



愛媛県

愛媛県作業療法士会 事務局

愛媛県作業療法士会 花田智仁

愛媛県作業療法士会では、作業療法の啓蒙活動として市民向けの公開講座を毎年企画しています。今回で23回目を迎える本講座ですが、テーマは『コロナ禍でも活かせる転倒予防の理論と実践』でした。特別公演Ⅰでは、転倒予防の分野では第一人者であられる一般社団法人日本転倒予防初代理事長の武藤芳照先生をお招きしました。特別公演Ⅱでは、予防体操にエンターテインメント性を盛り込んだリハビリ体操を考案し、全国で活躍されている作業療法士の石田竜生先生をお招きしました。当日は、当事者家族や様々な職種の方にも参加して頂くことが出来ました。今年の第24回は、「依存症」をテーマに著名な講師陣をお招きする予定です。近年は、会場とオンライン配信のハイブリッドで開催しており、県内外の方にも参加して頂くことが多くなりました。今後も、作業療法が県民や市民、他職種に対し貢献できるよう、県士会と事業部一体となって頑張っていこうと思います。



高知県

高知県作業療法士会 事務局

高知県作業療法士会 浅川英則

高知県作業療法士会が参画している県中北部にある仁淀川町の一般介護予防事業『ハツラツ』が広がりを見せています。卒業された方がお支えさん（フレイルサポーター）となり、町内に新たな拠点も立ちあがりつつあります。同様に県北部の大豊町でも活動が始まり、こちらにも作業療法士が参加しています。より実践的に介護予防事業に関わる視点や知識を身に付ける育成研修も進んでおり、修了者は『フレサポOT』として各事業に参画を始めています。また、作業療法に関する啓発活動はCOVID-19の影響もあり、ここ数年は開催できていませんでしたが、5類への引き下げを機に再開させていく予定です。それに先立ち昨年末に高知市中心商店街にて一般の方向けのアンケート調査と広報グッズの配布を行いました。アンケートの結果から、作業療法(士)の名前は広く知られているもの

の、それ以上の内容についてはまだまだ認知度が低いことが示されました。引き続き、各種士会活動により作業療法(士)の認知度向上に努めていきます。



(一社) 日本作業療法士協会 常務理事 三澤一登
愛媛十全医療学院

新型コロナウイルス感染症に伴い人々の日常生活に与えた影響は想像以上であり、これからも引き続き目に見えない相手への不安や感染リスクへの対応が求められます。日々、更新される感染者数を気にしながらすべての国民が行動を自粛し規制を意識する日常と感染するかもしれない不安とストレスを感じる毎日だったかと思います。国も感染法上の分類を「2類」から「5類」相当への変更を検討し導入時期が決まり、少しずつではありますがコロナ禍以前の日常を少しずつ取り戻してきているように思えます。しかし、急に今の生活スタイルを変更することにはいささか抵抗を感じているのは私だけでしょうか。

我々が、今回のことで学んだことはオンラインでの会議のあり方や利便性を活かした会務運営をどのように展開するかです。何ごとにおいてもメリット・デメリットはあります。有効活用するには個々の柔軟な思考と適応能力が一方では試されているようにも思います。日本作業療法士協会も、迅速性と即応性を意識した組織再編に取り組み、さらに事務局の機能強化を目指しています。人材育成等の課題はありますが、ハードとソフトの両面を意識しバランスの取れた組織作りが重要だと思います。

「常務理事としての活動」

本来、常務理事は各関係団体との連携や渉外活動が重要な役割ですが、県外移動の制限・職場内の規程で思うような行動が取れなかった2年間です。全ての会議が、オンラインによるモニター越しの会議で、移動に伴う時間や経費の削減にはなりません。しかし、一方で毎日のように業務外の時間帯で会議の回数だけがが増えて、時間拘束が増えて業務過多に陥ることもありました。オンライン会議は、臨場感に欠けると集中力の持続が困難なため頭の整理や切り替えるのに大変苦慮しました。最近はモニター越しに見る人の顔がかえて同じに見えてストレスに感じることもあります。まさしく、想像もしなかった個人に与える悪影響かもしれません。しかし、そんな中でも積極的に時間調整し各関係・関連団体の会議へ参加し関係性を持続すべき対応しました。年が明けては、行動制限が緩和され対面での会議機会も徐々にですが取ることができ改めて対面会議の重要性を再認識しました。人は直接会うことで様々な情報を得て人間関係を築くことが出来ます。早く、本来の渉外活動を復活させる必要があります。

主な渉外活動としては、日本発達障害ネットワーク(JDDnet)の副理事長としての会務運営：発達障害議員連盟の役員会・厚生労働省：社会保障審議会障害者部会や労働部会・国土交通省：関連委員会の委員としての参加：リハ病院施設協会の障害児・者支援検討委員会等、関係する関連団体の各種会議への参画です。

「教育部長としての活動」

*養成教育関連

指定規則・カリキュラム改正に該当する年に入学した3年制の養成校は卒業生を送り出すこととなります。コロナ禍での学校生活は、感染予防回避行動による自粛・リモート講義・代替え実習等で、学生だけでなく教員も急な対応に追われ不安と緊張とストレスを感じながら日々の生活を過ごしたかと思います。また、臨床実習指導者講習会も継続的にリモートを主に開催され当初の数値目標は達成しました。士会の積極的な取り組みと協力があり実現したと感謝しております。引き続き宜しくお願いします。

*生涯教育関連

2003年に生涯教育制度が創設され、20年が経過し5年ごとの定期的な見直しを実施し、現在に至っております。生涯教育手帳の移行も経過処置を含め会員へ周知し無事に終了しました。専門作業療法士では、新規分野の脳血管障害を加えたことで多くの会員が目指していただけることを大いに期待しております。新生涯

学修制度についても2025年を目途に準備を進めております。既存の生涯教育制度を活かし、今回、重点を置いているのは卒業後1年から2年を対象に早期に研鑽の機会を提供し、5年後には後輩育成等指導者ができることとしております。詳細は、理事会審議を経て適宜皆様へ情報提供を始めます。現会員の皆様には、早期に基礎研修を修了し臨床実習指導者講習会の要件を満たした時点で受講を勧めています。引き続き宜しくお願ひします。

***研修運営関連**

コロナ禍で研修のあり方も対面からリモート等受講方法も様変わりし、時間と経費の有効活用が可能となりました。しかし、その結果として研修会を受講する希望者が多数あり待機をお願ひすることがあり大変ご迷惑をおかけしております。引き続き研修運営に関しては、来年度も運営形態の課題を残しておりますが早期に解決すべき具体的な検討を進めております。

***その他関連する事項**

第四次5ヵ年戦略(2023-2027)地域共生社会5ヵ年戦略・組織力強化5ヵ年戦略の策定に係りました。詳細は2023年2月15日発行第131号に掲載されておりますので是非一読をお願ひします。地域共生社会の実現に向け、医療専門職である作業療法士が具体的に何を担っていくべきか、日本作業療法士協会として何をすべきかを記載しております。また、組織力強化も直近の課題でもあり、作業療法士を目指す次世代の人材確保と育成です。将来の職業選択の上位になるべき広報にも力を入れ、同時に臨床で働く作業療法士の姿が魅力的に写らなければ目指そうと思う人も増えません。今が大事で将来に繋ぐ時と実感しております。

「これからの協会と士会活動」

***連携することの重要性**

日本作業療法士協会と都道府県作業療法士会が今一度スクラムを組んで取り組みこの荒波を乗り越えていく必要があります。社会情勢は刻々と深刻な状況に変化しつつあり、人口減がもたらす影響を我々も意識し備える必要があります。多職種連立時代で連携は重要ですが、一方で個々の職種の専門性を提示しなければ埋没してしまいます。その為にはお互いの役割分担があります。各地方の実態に即した対応は士会で、国に対する働きかけは現状を把握し適宜・適切に提言できる職能団体としての役割を協会が担う必要があります。「士会員=協会員」共に一致団結しスクラムを組まなければならないときかと思ひます。理屈ではなくこれが現状です。

最後に、誰かが継続し会員個々の思いを実現するために動く必要があります。組織は人が入れ替わることで活性化しますが、理念や方針はしっかりと受け継がれなければ迷走します。誰かがやらなければ前には進まないと思ひ心境です。今後とも宜しくお願ひします。

「作業療法士が四国の暮らしを支える」

(一社) 日本作業療法士協会 理事 岩佐英志

所属：有限会社マーキュリー

「人は作業をすることで元気になれる」は、日本作業療法士協会のスローガンです。確かに生活行為、学習や創作活動、就労や家庭内役割を含む活動などが作業ですので、地域文化と人をつなぎ、心豊かに生きていくことを意味していると思います。しかし、加齢や病気、障がいによってできていたことができなくなってしまう時に会うのが作業療法士ですね。今更説明するまでもないと思いますが、健康な時に会うことがあまりないというのが私たちの仕事かもしれません。介護予防事業もありますが、加齢による生活機能・心体機能の課題を抱えている方が対象ですし、健康増進のための支援としての位置づけと思います。

さて、2019年から新型コロナウイルスによるパンデミックがはじまりましたが、第5類としての位置づけに移行することとなり、社会活動が少し戻りつつあるように感じています。ただ、5類になったとしてもウイルス自体は変異を続けていくのですから、制度上の変更で「手洗い・うがい」は変わらず「マスク」が個人の判断となり、心理的には外出しやすくなるのではないかと思います。地域の一員としていることを認識するためには、所属している集団の中での安全が担保され、その人らしい活動が営まれ安心して社会に参加することなのだと思います。

幸いなことに、わが国では争いごとで命の危険にさらされることはありませんが、世界から入るニュースには本当に心を痛めることが少なくありません。グローバル社会と言われながら島国の日本、小さくなり分断され距離が離れることも多く経験したのではないかと思います。特に、コロナ禍でいままで何気なく生活していたことが特別になり、人とのつながりが難しくなった気がします。しかし、ピンチはチャンスですので新しい生活様式を取り入れ、人との距離も考えながら行動するようになってきているのは人の生きる力そのものですね。しかし、地域の介護予防の観点からすると閉じこもりや廃用をいかに予防するか、元気になるためのより良い作業を取り入れていく生き方を大切にしたいですね。そのような生き方に躓きはじめた方々に「何かしたいことはありませんか？」と漠然と聞いても明確な答えは返ってきませんね、でも「最近できなくなったことはないですか？」と視点を変えて聞いてみると答えが返ってくる場合があります。何か原因があってできなくなったことは、機能回復や環境整備、生活スタイルの変更で再開出来ることがあるのです。そして、そのチャンスを見逃さないのが作業療法だと思いますし、ご本人のモチベーションが確認できたならスモールステップからやってみましょう。数値化することや成果を綴るポートフォリオも良いですね、地域ケア会議でも興味関心チェックシートが取り入れられていると思いますが、その辺りを探っていただければ良い提案ができるかもしれません。

さて、当協会は次年度大きな組織改編を行います。地域包括ケアシステム委員会や運転と作業療法委員会、そして47都道府県委員会や災害対策室など地域課題に取り組む委員会全てが地域社会振興部として始動します。士会と協会が共に協調して地域課題に向き合う全国の包括組織ができるということは、四国にとっても大きな後ろ盾となるはずですが、各委員会が集約してきた情報と培ってきたネットワークをもって課題に当たれるなら、四国の課題は全国の課題と改めて認識することもできると思います。大都市以外は気候や文化の差違はあれど課題は同じはず、高齢化、移動難民、災害をとっても四国は直面していて、実績もあるのではないかと思います。是非、全国の共通項を見つけていきましょう！共通項の上に四国の文化を大切に作る視点が乗れば良いのではないかなと思うからです。シンプルに考えながら行動する力を私たちは意識しなければいけないのではないのでしょうか？私も考えすぎて躊躇することがありますが、やってみるとできたりできなかったりの境目を知ることができます。考えていても始まらないことはあっても、自分よがりではダメですので行

動を共にできる仲間と共に一步踏み出す力を大切にしたいですね。新しいモノやコトにチャレンジする時は、全員の同意を得ることは大きなハードルとなるので、小さなコトを小さなメンバーで取り組むのがいいですが、そこから広げるといふ思いをもっておくことが大切です。広げられないこともテーマとしてあるかもしれないですが、実践したことは必ず次につながります。その経験が新しい発見になるかも知れないし、はじめから上手くいくことなどあまりないですから。本田宗一郎は「やってみもせんで、何がわかる」という言葉を残しています。本田技研工業株式会社安全運転普及本部の方と共に活動する中で、時折教えていただく名言のひとつです。本田宗一郎が言う「やってみる」とは半端でなく本気でとことんやる意思であるようで、ごじゃごじゃ言っていたらしごを外して火をつけるぐらいの気性と愛情に溢れた創始者だったようです。作業療法士はリスクを予測して回避して安全なルートを見いだす専門性がある仕事ですが、自動車メーカーとつき合い、現在福祉車両や移動販売車を手がける会社で働く身となって感じることは、多少のリスクと目指すところの姿がイメージできたらスタートすること、そして効果検証して次に繋げることのスピード感を重視していることだと感じます。どこまでできたのか、何故できなかったのか、次への可能性はあるのか、誰のためのプロジェクトであるのか等、そして仕事として成り立つのかということが重要であることです。四国運転リハプロジェクトがスタートしたのが2014年、2022年には日本運転リハプロジェクトにステップアップしました。四国から全国への志は灯火も消えそうに感じることもありながら、究極のボランティア精神で多くの方のご参加をいただけたこと本当に感謝しかありません。

さて、四国発祥の企業も結構あって、徳島は青色発光ダイオードの日亜化学工業株式会社、香川は建設器機大手の株式会社タダノ、愛媛は有名な日本食研ホールディングス株式会社、高知はごっくん馬路村の馬路村農業協同組合があります。全国各地で愛され、そして全世界で活躍しているスゴイ企業ですね。本田宗一郎も静岡県浜松市の出身ですので、地方から全国、全世界に打って出る考動力があれば歴史となるのですね。私たち作業療法士は、リハビリテーションの専門職ですのでビッグビジネスとするより、対象者お一人おひとりの生活により沿い、そのひとの人生を元気にすることができる社会的意義のある仕事です。若い方の考動力を大切にグローバルな視点を持って作業療法士として活躍いただけるよう、協会と士会と四国の地域がつながるといふ夢を描きたいと思います。夢は大きくしないと萎むものですから、小さすぎると無くなります。グローバルな視点をもっていただくには2024年に札幌で開催されるAPOTCがあります。是非ともアジアの作業療法士とつながり四国の課題が共通であるか、何が違うのか、しっかりと感じ取っていただければと思います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

四国作業療法士会連絡協議会の益々の発展と、四国、全国、そしてアジアの作業療法の発展と皆さまのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

【編集後記】

新型コロナウイルス感染症により社会情勢が変化する中、研修会も様々な進化をとげました。今後とも、会員の皆様により良い情報をご提供していけるよう事務局業務に努めてまいります。